

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第1四半期の入場者数は、昨年同期に比べ781人、14%の増加となった。前指定管理期間の平均値との比較では96.4%であった。事業別では上映事業とその他事業の観覧者が増加したことで全体の入場者数を押し上げる結果となった。

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・ 通常の設備保守・点検等が適切に実施されている。
- ・ 館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。

● 資料等の維持管理

- ・ 施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・ 展示事業では、開館以来最も少ない観覧者数となった。4月にテレビ番組で取り上げられたことで、一時的に集客があったものの、「川喜多長政・かしく夫妻の軌跡」の展示が前年度の3月から長期に渡って開催され、その間マスコミ等で扱われることがなかったことが影響していると思われる。
- ・ 上映事業では、展示関連の作品に往年の名作が揃ったことと、以前上映した際に好評であった樹木希林出演作品のアンコール上映など展示関連以外の作品も人気を集め、開館以来2番目に多い観覧者数となった。

● 調査、研究及び情報提供

- ・ 次期の通常展示「映画で巡る世界一周」に係る調査研究を行っている。
- ・ 秋に開催する特別展示「明治・大正文藝シネマ浪漫」の調査研究を行い、その成果を大学で行われた講演会で発表した。
- ・ 情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。また、映画上映時に配布している各作品の概要をまとめたリーフレットを綴じたものを配架し、誰でも手に取って見られるようにした。

● 広報及び宣伝等

- ・ 市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載しており、さらに、市本庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等へ利用促進の情報発信を行った。
- ・ チケット販売店や都内名画座、近隣市町の図書館にチラシの配架及びポスターの掲示等を依頼し、記念館への集客に向けた広報及び宣伝等に努めた。
- ・ テレビの情報バラエティ番組で記念館が紹介され、旧和辻邸の一般公開の期間とも重なり、昨年同期と比べ2倍の来場となった。多くの人が視聴するメディア等に取り上げられることで記念館の知名度が上がり、来館者も増加することから、今後も積極的な広報活動に努めてもらいたい。

● その他の事業

- ・ 大島渚監督が出演したドキュメンタリー上映と小山明子氏のトークショー、鎌倉で活躍する車夫：青木登氏が協力した映画の上映とトークショーは、いずれもほぼ満席となるほど好評であった。
- ・ 上映後に映画談話室を開催することにより、上映観覧者の満足度を高めるとともに、映画ファンの結びつきを深め、リピーターの獲得に努めている。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・ 例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
4月分:5月14日、5月分:6月14日、6月分:7月11日提出

● 事故・苦情対応

- ・ 6月19日のデジタル作品「あん」上映時にセンターのみ音響が出ない事故が発生した。再度立ち上げ直したところ復旧し、20分遅れで上映再開となった。特段の苦情はなかったが、上映観覧者には映画招待券を配付した。専門業者に問い合わせたが、原因は特定できず、デジタル上映では今後も起こりうる現象の一つであるとの助言を得たため、映写担当者と上映前に最終チェックすることで再発防止を図るよう確認した。

● その他

- ・ テレビ番組の取材を受けるなかで、出演した建築を専門とする大学教授から番組とは別に、旧和辻邸の追加調査の申し出があった。調査を受け入れ、報告してもらうことで、来館者に旧和辻邸を紹介する際、より詳細な説明を付け加えることができることから、今後の調査成果を期待したい。
- ・ 昨年度末から行われているギャラリートーク&旧和辻邸見学ツアーは、展示作品に付加価値を与え、普段ではできない建物内部の見学が可能となることから、参加者の満足度を高める取り組みであり、今後も引き続き実施して欲しい。

5 全体評価

- ・ 今期の展示事業については、観覧者数が伸びず苦戦を強いられた結果となった。展示期間の設定や展示内容など低調となった原因を追究し、今後の展示を企画する際の参考となるような検証を期待したい。
- ・ 一方、今期の上映事業は、開館以来2番目の観覧者数を誇り、展示関連上映と展示関連以外の上映のほとんどの作品が高い入場率となった。これまで展示に関連した上映作品の選択の難しさから、安定した鑑賞者を獲得することは、困難であったが、今期の成功を分析し、次につながるよう取り組んで欲しい。
- ・ 調査研究の成果を大学の講演会で発表したことは評価できるが、記念館においても来館者に成果を還元できるような仕組みを構築して欲しい。

令和元年度第1四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目		判定点	第1四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務				
来館者数の動向				
	入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務				
施設・設備の維持管理				
	定められた点検が実施されているか	5	○	
	不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
	庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理				
	資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務				
上映及び展示				
	計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
	予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供				
	映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
	研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務				
	展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
	来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等				
事務処理				
	決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
	市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
	市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
	固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応				
	来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
	苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他				
	研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
	災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
	個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計				0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%